

多重免疫染色システム（PhenoCycler® - Fusion）による 空間シングルセル解析 と 空間解析用ツール（SpatialX）のご紹介

日時：2026年 9月15日(火) 14:00 ～ 15:00

場所：大阪大学CiDER棟共創スペース（7-9階吹き抜け）

形式：オンサイト/オンライン（ハイブリット）開催

演者：バイオストリーム株式会社 太田 嘉一（アプリケーション担当）

Webでの参加方法：右記のURLもしくはQRコードからご参加してください。

<https://forms.cloud.microsoft/r/5AY7E9PvjW>



PhenoCycler® - Fusion システム（Quanterix：旧AKOYA）

・システムの特長／測定方法

組織のFFPE切片または凍結切片を用いてシングルセルレベルの解像度で一度に～100種の抗体による 多重免疫染色を実施可能なシステムです。測定は、CODEX 法により DNAバーコード抗体と蛍光レポータープローブの結合による検出（3カラー）を行い、そのサイクルを繰り返すことによって多重染色を実現します。

・空間シングルセル解析

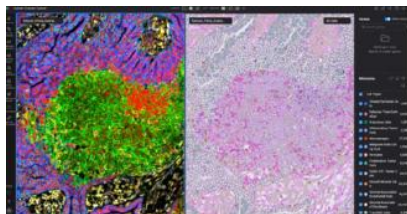
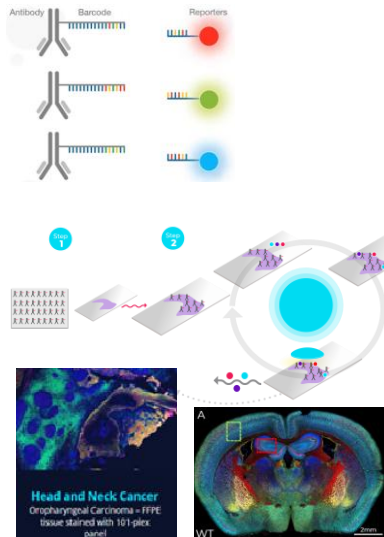
昨今では、サスペンションではなく組織の位置情報を保持したまま、細胞間や領域間の相互作用を予測する、いわゆる“Spatial Biology”が重要視されるようになっていきます。

・使用例

免疫チェックポイント阻害剤による免疫細胞分布の解析
頭頸部癌における腫瘍微小環境の空間プロテオミクス解析
アルツハイマー病・脳組織における空間解析 など

・空間マルチオミクス解析

空間シングルセル解析の方法には、抗体によるタンパク質検出の他、RNA 検出の方法も行われており、それらを統合した空間マルチオミクス解析も行われるようになってきています。



SpatialX（Bioturing）

・システムの特長

空間トランスクリプトーム解析、空間プロテオミクス解析、H&E 画像など、複数の画像を並べて表示・解析が可能
クラウドベースの解析ツールのため、ハイスペックなPCは不要
様々なデータフォーマットに対応

本セミナーではPhenoCycler® -Fusion システムの原理と概要、ワークフロー、アプリケーションの他、空間オミクスデータ解析用ソフト（BioTuring社 Spatial X）についてもご案内させていただきます。

お問い合わせ先：

バイオストリーム株式会社

info@biostream.co.jp 担当：松本

大阪大学 感染症総合教育研究拠点（CiDER）共用実験室 原

Tel: 06-6879-8877 Email: info.coref@cider.osaka-u.ac.jp



© 2026 Quanterix. All rights reserved.

